

## ② 砂丘から見える景色

### ■ 位置 鳥取市福部町（図1）

地点1：鳥取砂丘 馬の背

北緯 35° 32' 43.5"

東経 134° 13' 50.1"

地点2：有島武郎歌碑の北方

北緯 35° 32' 08.0"

東経 134° 13' 07.5"

### ■ アクセス

JR最寄駅：鳥取駅

バス停：鳥取駅前バスセンターから周遊

バス”麒麟獅子”か路線バス”鳥取砂丘

・岩井温泉方面行”で鳥取砂丘下車

自家用車駐車場：

地点1：みやげもの店駐車場

地点2：有島武郎歌碑前（4～5台分）

### ■ 選定理由

樹木や建物にさえぎられることなく、海岸や山地の雄大な地形を遠望することができる（図2～図4）。

### ■ 指定の有無

国立公園（地点1）

鳥取大学乾燥地研究センター（地点2）

### ■ 特徴・地形地質の意義

陸と海が接する沿岸地帯の地形、そして、その形成にかかわる地殻変動を理解する絶好のロケーションである。

### ■ 利用の状況

地点1：鳥取砂丘の訪問者は必ずといってよいほど立ち寄る景勝地である。

地点2：ほとんど利用されていない。有島武郎の歌碑から、砂丘地を歩いて約200m。

### ■ 周辺の環境

地点1：砂丘地（観光地）

地点2：パッチ状被植砂丘地

### ■ 観察者の対象

地点1：小・中・高・一般

（30mほどの高低差あり）

地点2：高・一般

（アクセス道はないので、要注意）



図1 観察地点（国土地理院発行 2.5万分の1地形図「鳥取北部」）



図2 快晴の日には西に、遙か大山まで遠望できる [地点1から]



図3 沖を泳ぐクジラにたとえられる海士島は、”竜宮城へむかう亀”にもみえる [地点1から]



図4 台形の駒馳山から東は荒磯になり、遠く丹後半島まで風光明媚な岩石海岸がつづく [地点1から]



図5 鳥取の「南高北低」の山（鷲峰山～長尾鼻まで傾斜4°～3°のなめらかな尾根が連なる）[地点2から]

### ■ 解説

私たちがふだん見ている山はデコボコしている。ところが鳥取砂丘から西を遠望すると、山のイメージが一変する。鳥取の山は日本海へ向かって緩やかに傾いていて（図2・図5）、鷲峰山から長尾鼻までほぼ一定の3°～4°の勾配になっている（ただし、高所は旺盛な浸食作用のために凹凸）。鳥取砂丘からは鳥取の山の特徴を見てとることができ、それは「南高北低」の一言で形容できる。3°～4°の勾配は、私たちの生活感覚ではわずかな角度であるが、岡山県境まで延ばすと山地高度は1,500mを超える。冬には、雪雲が山に沿って上昇し、たくさんの雪を降らせることになる。

### ■ 観察の視点

「南高北低」の山は、どのようにしてできたのだろうか？ 詳しくは、関連文献をみていただくことにして、ここでは、その結論だけを紹介する。数100万年前の鳥取は、河川が陸地を海水準近くまで浸食し尽くした平原（準平原：図6左）であった。その後、南上がりの隆起運動が起こり、南高北低の山地（傾動準平原：図6右）は河川によって浸食されながら隆起をつづけ、今日みられる地形ができあがった。山なみに見られる3°～4°の勾配（図2・図5）は、かつての準平原のなごりである。



図6 鳥取の山の形成モデル

### ■ 山陰ジオパークでの意義

「南高北低」の山なみは、鳥取県のみならず、山陰全域（大山や三瓶山などの火山を除く）に共通する地形的特徴である。その全体像を「超ワイド画面」で見ることができる鳥取砂丘は、稀少ない地形観察ロケーションである。この山なみは、砂丘とともに、鳥取砂丘が誇るもう一つの雄大な景観であり、学習や観光に活用できる貴重な地域資源でもある。

### ■ 教科との関係

理科では地学分野の地殻変動や気象、社会では地理分野の地形形成史などの教材として、そして、何よりも郷土への理解を深めるうえで貴重な景観である。

### ■ 緊急時の連絡先

☆最寄りの交番：砂丘駐在所 [0857-23-4067] ☆近くの病院：鳥取中央病院 [0857-26-7111]

- 文献 矢野孝雄（2009）大地のおいたちと地域環境。岡田昭明編，地域環境学への招待，5-14，三恵社。（矢野孝雄；2008.12.24）